

田中復興大臣の宮城県訪問ぶらさがり会見録
(令和元年12月12日(木) 13:11～13:20 於) 石巻市)

1. 発言要旨

本日は、女川町、そして石巻市を訪問させていただきました。女川町では、台風19号で被災した道路事業について、被災状況を視察しました。復興事業の進捗に支障をきたさないように対応をしまいたいと思っております。

また、石巻市では地域の主要産業である水産加工業の力強い復興をいろいろと視察をさせていただき、お話を伺ったところでございます。湊水産を訪問し、職場の中に保育園を設置しておられまして、非常にすばらしい取組だと思っております。

また、この河川堤防を活用したまちづくりについても視察させていただき、いしのまき元気いちばも拝見させていただいて、賑わいが戻りつつあるというか、大変すばらしい賑わいの状況のお話を承ることができてよかったと思っております。さらにこの状況を継続し、発展させることができれば、この石巻の地域に大いに貢献ができる、このように思ったところでございます。

今後とも、自治体との連携をしっかりとさせていただきながら、現場主義の徹底を図っていくこととあわせて、被災者の皆さんに寄り添っていくという、私どもの基本姿勢を貫いてまいりたいと思っております。

私自身、実は発災当時、野党でありましたけれど、自由民主党のシャドーキャビネットの環境大臣を務めておりました。そして衆議院の環境常任委員会の野党側の筆頭理事でございましたので、しばしば石巻を訪問しております。この石ノ森章太郎先生のミュージアムも、山の上から見ると、本当に大変な被災状況であったことを今、思い出しております。また、水産加工の品々、水産物が腐敗して、大変な臭いを発しておられまして、それを海鳥が大量に来てついばんでいる状況を思い出したところでございまして、本当に復興してきたかと、この思いを強くしておるところでございます。

2. 質疑応答

(問) 改めて、きょうの視察、来県といいますか、目的をお聞かせください。

(答) 国会中は出張するというのが限定的になりがちだったわけでございますけれど、議会が終わりましたので、被災地各所をお訪ねして、復興の状況の確認、あるいは台風19号を初め、豪雨災害もございましたので、復興事業におくれがあってはならないとい

うことで、そういう工事状況についても確認をしたり、視察をしたり、また現場でお仕事をする人たちの話を伺う、こういうことをさせていただくということの第一弾というか、そのようなつもりであったところでございます。今日は非常に実りある視察ができたと思っております。

(問) 具体的に実りあるというのは、どういうところですか。

(答) やはり状況を実際に私自身が確認できたということが一番重要でございます。いろいろと数字を見たり、状況については確かに報告はあるわけでございますけれど、私がお場に行って確認をしているわけではないということがあったわけでございますので、そういう意味では実りがあったと、このように思っております。

(問) 福島は10年、地震・津波被災地域は5年延びたわけですが、今回視察して、どういったものが必要だったとお感じになりましたでしょうか。

(答) きょうは宮城県の視察でございましたので、今後、復興の状況について、特に復興庁の今後のあり方について、もう日にちも迫ってまいりましたが、年内に取りまとめてまいりますけれど、やはりこれからの5年というのが宮城県においても重要な時期でございます。こういう重要な時期に県知事さん初め、自治体からも御要請があるように、復興の今後の推移、あるいは人々へのケア、こういうことを課題として取り組んでいかなければいけない、このように思っております。特に市町村の方々との連携、あるいは各省庁との連携、こういうものが復興庁に強く求められていくだろうと思っております。

(問) 年の瀬でもありますので、今年の総括、それから来年への意気込みをお聞かせください。

(答) ことし、各関係の自治体の皆さん、また、中央省庁の関係の皆さんに一生懸命頑張ってもらっていて、復興も順調に進んできたと思います。しかし、一方において、台風15号あり、19号あり、大きな豪雨がありまして、大変な被害が起きております。日本の国そのものがやはり自然災害が非常に多い国でございますので、こういうものと複合的な状況が起こってくる。これをきちっと乗り越えて、やはり復興を成し遂げていかなければならない。この思いが私の今までの総括であり、これからの来年の課題だと思っております。

(問) 現状の復興状況というのは、大臣としてどのように捉えられていますか。全体と言うとあれなので、石巻地域ということで。また、地震・津波被災地域は5年という期限がある中で、知事初め、

その期限に対するいろんな思いがあると思います。それに対する現状の大臣の受け止めをお聞きしたいです。

(答) 細かく言うと、皆、自治体ごと、地域ごとに状況には違いがあると思いますが、概ね順調に復興が進んできているな、このような認識でございます。あと5年の間で、私どもも最後の本当の形を仕上げていく。ただ、率直に申し上げまして、いつも同じように申し上げているかもしれませんが、産業・生業、こういう分野がきちっと整っていかないと、税収は上がってきませんし、多くの人たちがそこで仕事をして、生活をして、子育てをしてということができなくなっていくわけでございます。元々、地方自治体の人口減少がある中で、被災地の皆さんにやはり盛り上げていただく、本当の真の復興を成し遂げていくためには、その仕事の面で、生業の面で、今後どのように進めていくかということに力を注いでいかなければいけないと思っております。それがまさしくでき得ない限り、画竜点睛を欠く、こういうことになると思いますので、私もそういう思いを持って一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

以上でございます。

(以 上)